

心豊かでたくましく共に生きる子ども



ひらかた

10月号

令和6年9月27日
上尾市立平方小学校
校長 大野 和孝



ホームページ [上尾市 平方小学校](#) 検索 QRコード

～読書の秋～

校長 大野 和孝

ようやく暑さも落ち着き、過ごしやすい季節となりました。晴れている日に空を見上げてみると、真夏に盛んだった入道雲に代わり、白い秋の雲が軽やかに流れています。さわやかな朝の空気の中で、子供たちと元気に挨拶を交わし、清々しい気持ちで一日をスタートしています。

さて、このような過ごしやすい秋の季節にお勧めしたいのが読書です。本を読む効果については様々あると言われていています。例えば、知識の蓄積です。本から自分の知りたい情報を得ようとする時、そのこと以外にも、関連する情報に触れることができます。一つのことから学びが広がり、幅広い知識を身に付けることができます。また、読書により語彙力も高まります。私たちは、言葉を介して考えたり、表現したりする機会が多くあります。言葉を知ることは、以前よりも考えが深められたり、自分の気持ちをよりの確に相手に伝えられたりすることにつながります。

もう一つ、読書の効果として感性や想像力が磨かれることが挙げられます。物語を読み進めていくと、自分の知らない世界に没入していきます。登場人物の気持ちの変化や生き方に触れ、たとえ架空の設定であっても、心の中では「どんな気持ちだったのだろうか…」「周りの様子はどうなのだろうか…」と想像が膨らみます。主人公に感情移入し、嬉しさや悲しさを自分の事のように感じることで感性が、文章を読んで場面をイメージすることで想像力が磨かれます。感性を磨けば、小さなことでも感情が揺さぶられます。幸せを感じる心、感謝の気持ちなどが育まれます。想像力を磨けば、新しいことを生み出したり、困難な課題に対して解決を図ったり、芸術の世界では言えば創作したりすることなどに活かされるでしょう。さらには、人に対する優しさや思いやり、時として行動する勇気など、人と関わり合って成し遂げるために必要な内面的な資質も磨かれることでしょう。

本校では、毎日10分間、朝読書の時間を設けています。登校後の準備を終えると、本に夢中になる子供たちの姿があります。落ち着いた雰囲気の中で読書を行い、チャイムとともに朝の会が始まります。また、定期的に読み聞かせも行っています。担任だけでなく、他の教員が読み聞かせを行うなど本と出会う機会をできるだけ多く設定しています。学校図書室には約8000冊の本が子供たちとの出会いを待っています。毎年約200冊の本が新たに置かれています。

子育てや教員経験を振り返ったとき、子供たちに「本をたくさん読みましょう。」と言って読書好きにさせられた経験はほとんどありません。読書の効果を子供たちに語っても、効果を期待して本を読む子供も多くはなかったように思います。読書好きな子に共通して言えることは、本を身近に感じられる環境があること、本の面白さを知っていることなどが挙げられます。

これからは落ち着いて読書に取り組むにはよい季節となります。秋の夜長におうちの人と今読んでいる本の話をしてみるのはいかがでしょうか。読み聞かせをしながら、子供は物語の世界へ…大人は夢の世界へ…も、よいのではないのでしょうか。

